

「sunk cost」と歴史の考慮は、その効果を発揮する期間の違いによって両立できると私は考える。sunk cost(以下サunkコスト)は今現在起きていることに対して、その原因となる過去の流れを考えるかどうかという問題だ。一方で歴史の考慮は、今起きていることとは関係なく幾分離れた時系列上でも「こうすればこうなった」ということを知ることだ。

具体的に、有限完全情報ゲームである将棋を例にとってみる。ここでサunkコストは「この1局の流れ」であるのに対し、歴史は「今まですべての対局の結果」であるといえる。ここで、歴史は過去のものであるのにその先まで結果が出ているという点が重要だ。同じ局面が出ることは殆どないが（以前、40手ほど同じ指手で続いた対局は経験しているけども。）、過去と似た局面は序盤中盤にいくつか存在する。最善手は似ているというだけで断言できないが、これだけはやってはいけないという悪手を歴史により避けることができる。1手の中に何十通りもの手を考えなくてはならない将棋では悪手を省くだけで、かなり正解に近づくことができるのだ。

これは現実世界でもいえることだ。景気が悪くなったとき、良すぎるときにどういった対策をとれば最悪の事態を回避できるかは歴史上での失敗から学ぶことができるし、もしかしたら歴史上には最悪の事態を回避するどころかプラスに転じることができていた事実があるかもしれない。これはサunkコストでは考えられないと思われる。サunkコストはあくまでその事象の流れであり、例えば「この株に〇円投じたのだから今更引けない」という考えである。それと対照的に歴史では客観的に物事を見ることができているため、その場の最悪を防ぎやすい面で有用だ。

以上の観点から私は、サunkコストは短期的主観的思考、歴史を学ぶことは長期的客観的思考であり両者は同じようで違う性質のものだと考える。